

能登半島から、
未来をつくる



オーガニックベース石川(株)
香土カグツチ 洲崎邦郎さん (石川県珠洲市、野々市市)

Midorist Vol.11

みどりすとして紹介したいな、と思ってあたため続けてしまっていたのが、オーガニックベース石川株式会社（珠洲市）の洲崎邦郎さんだ。私が石川に着任してから最初に目に留まった、話を聞いてみたいと思った農業者。石川から持続可能な農業を考え、活動している人だ。

洲崎さんたちの取組は、能登半島を向いている。「能登半島に地球が喜ぶ農業の一大生産拠点を。農業と子供の未来をつくる。」これが洲崎さんたちの掲げるコンセプト。目標は、2030年までに能登半島に200ha規模の農業や化学肥料を使わない野菜、穀類、果樹、畜産などの一大生産拠点を作ること。

洲崎さんは、大学卒業後ホテル勤務を経て、2010年から石川県七尾市の能登島にて、仲間と共に耕作放棄地を活用した米やオリーブの栽培を始めた。



ホテル勤務から農業への転身のきっかけは、最後に勤めていた兼六園にほど近い小さなホテルで、農家と出会ったことだった。ふだんホテルで提供する食事は、料理長とプランを相談して決め、そのプランに基づいて野菜を注文する。野菜は簡単に手に入るのが当たり前になっていった中で、農家さんから農業現場の話聞き、気づけば頭の片隅でいつも「農業」という生業を考えるようになった。

「野菜はいつでもあるわけではない、農家からしたら農家の言い分があるのではないか。一次産業から三次産業を見てみたいと思ったんです」、そう洲崎さんは話してくれた。



日本の食料自給率は低い（令和6年度…カロリーベース38%）。ウクライナ情勢からも明らかだが、国際紛争などの外的要因で円滑な輸入に支障をきたし、食料安全保障の根幹を揺るがす事態が引き起こされる。洲崎さんたちは、まずは石川県で消費者が安心して食卓を囲めるよう、食料自給率全国一位を目指す。

その手段の一つが、地産地消にこだわり石川県の野菜などだけを販売する八百屋「香土カグツチ」だ。有機JAS認証をうけている野菜、栽培期間中農薬不使用の野菜など、環境にも配慮して作られた野菜が並び、旬な野菜セットの配達も行っている。消費者と生産者をつなげたいと思った、と洲崎さん。

2017年に金沢市でオープン、その後、子育て世代のお母さんたちのおうちごはんを応援する

ために2021年には隣の野々市市に移転させ営業中だ。さらに、ベビーマッサージやヨガといったイベントも開催しており、地域の人々が集まる拠点にもなっている。

また、「香土カグツチの台所」として、石川県産の野菜を使ったランチ（月曜）やお弁当（木・金曜）も提供している。シェフの小津さんが、肉・魚・添加物を使わず、石川の旬の野菜を使って作ってくれる「身体ととのう」食事が魅力的だ。

私も香土カグツチで買い物させてもらうが、行くたびにいろいろな野菜に出会えるのが楽しい。けして大きい店舗ではないのだが、土蔵を改装して作られた建物、内装デザインがなんとも心地いい。ランチをして、農家さんがこだわりの持った野菜たちを選んで、小津さんにオススメの食べ方を教えてもらっておしゃべりして…と、束の間のほっこりした時間が過ごせる空間だ。

さらに洲崎さんは、2023年10月から珠洲市で約1haの農地を借り、「ファーマーズビレッジNOTO」と名付けて生産を行い、野菜などは学校給食への供給を目指している。

そして、農作業を行うのは農業従事者だけである必要はない、と思いついた。ちよつと手伝ってみたい人、家庭菜園をする人、半農半Xの人、農家と関わりを持ちたい人、流通業に関わる人など、消費者



すべてひっくるめ、農業をもっと元気にしたいという思いで、仲間とクラウドファンディングにより、「村民」を集めた（ファーマーズビレッジ（村）なので「村民」としたそう）。すると、100人の村民応募を得た。好きな時に農作業を手伝い、収穫し、自宅で味わうことができる仕組みを作ったのだ。珠洲の農地「ファーマーズビレッジNOTO」で、「村民」ともに農薬や化学肥料を使わない栽培を一層進め、これからは生物多様性などにももっと考慮して取り組んでいこう、という思いを強くした。

洲の農地「ファーマーズビレッジNOTO」で、「村民」ともに農薬や化学肥料を使わない栽培を一層進め、これからは生物多様性などにももっと考慮して取り組んでいこう、という思いを強くした。

しかし、こうした洲崎さんたちの取組を襲ったのが、2024年1月1日に発生した能登半島地震だった。

洲崎さんはこの日、金沢市内におり無事だったが、発災から3日後、珠洲市に入り言葉が失った。珠洲市の納屋も母屋も全壊し、能登の





拠点を失った。もう農業はできないと思った。それでも知人に頼まれて、珠洲市の避難所で炊き出しを開始。石川県内や東京の仲間から届いた支援物資を被災者に配り、支援金は食材費にあてた。そして、仲間たちからの支援とエールに強く背中を押され、野々市市に一時的に拠点を移し、農業を再開した。

洲崎さんは一見穏やかそうだが、その言葉はまっすぐに重たい。誰もやらないなら自分がやる、そんな力強さも感じる。「能登半島を元気にしたい、地震からの復興こそ農業からだ。」私は取材しながら何度か洲崎さんの言葉が胸に刺さった。野々市を拠点に移しても、洲崎さんは能登半島への想いを忘れることはない。2025年は能登半島の農業を考える一年にする、そして、更なる活動を開始する、と洲崎さん。石川と東京がつながるプログラムを進めていこうとしているのだ。石川チームは野々市

取材の最後、なんと空にうっすらと虹がかかった。これから先、なにかいいことが起こりそうな、そんな予感をさせる一日となった。



ちなみに、洲崎さんは「+みどり計画」の第1回セミナー（初回特別企画として拡大版で開催）でも、講師の1人としてその取組をお話いただいたので、+みどり計画HPに掲載しているセミナーアーカイブもご覧いただくと、より一層洲崎さんの想いを感じ取ることができると思う。これからも洲崎さんたちの取組を応援したく、私も村民登録をさせてもらっている。

「ファーマーズビレッジNOTO」で検索し、洲崎さんたちの活動や取組を覗いてみてほしい。野々市のほ場で農作業を行う、新規村民も今年は365名募集中。なぜ365人なのか。毎日1人来てくれたらいいなと思うから、と洲崎さんは笑う。

の拠点である香土カグツチと畑で農作業や食のイベントを実施・参加し、東京チームは東京発のイベント等を企画・実施する。また、企業版ふるさと納税を活用したり、能登・石川の豊かな食や農を体験できるオーガニックツアーを企画したりすることも予定している。



Writer: 首藤

DATA

農法：栽培期間中農薬・化学肥料不使用

品目：米、さつまいも、ばれいしょ、
ねぎ、なす等

【香土カグツチ】
（直売所）

石川県野々市市
中林3-116

営業時間

10:00~17:00

定休日：火曜日



KAGUTSUCHI_ISHIKAWA

